

日本と琉球のはざま 奄美大島の東隣の絶海の孤島 喜界島

喜界島で 12世紀の大規模な製鉄・鍛冶遺跡出土

西南諸島 喜界島 崩り(くずり)製鉄遺跡 & 城久(ぐすく)遺跡群

喜界島は 重要な交易品として鉄素材を琉球に供給していた鉄の生産加工基地か??

日経電子版 歴史新発見 「南島史が塗り替わる 12世紀製鉄炉跡の衝撃」の記事 より
2015/7/30 6:00 ライフ>アート&レビュー・歴史 http://mx.nikkei.com/?4_120617_107844_15

2015.7.31. by Mutsu Nakanishi

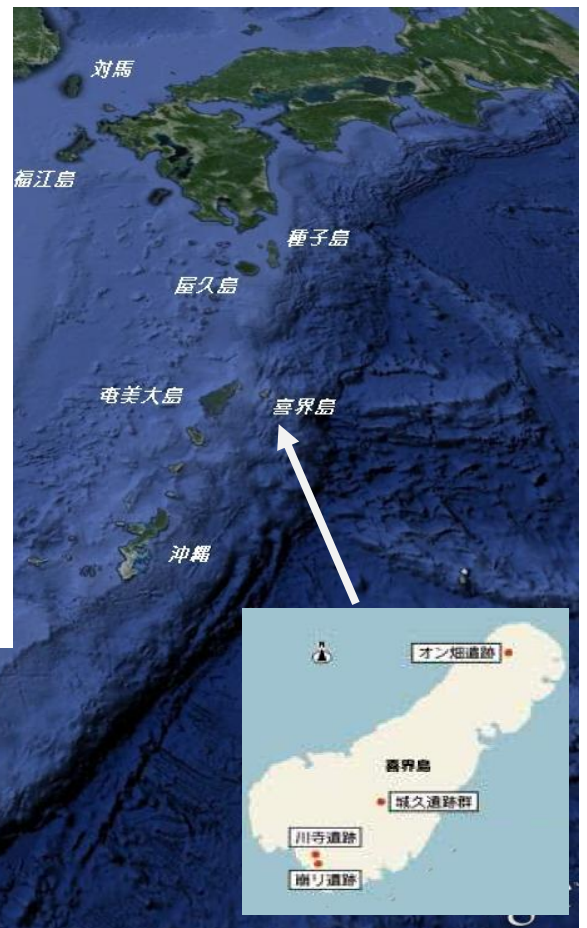
鹿児島県本土から南へ約380キロ 沖縄と鹿児島島のほぼ中間 奄美大島の東側に位置する周囲50キロ足らずの孤島喜界島の多数の遺跡から、最近 琉球・朝鮮半島・日本本土との交流を示す貴重な発見が相次ぎ、中でも 製鉄や鍛冶炉を含む製鉄関連遺構の出土が注目を集めているという。

当時、喜界島は日本本土の南の縁辺。絶海の孤島に、なんのためにこんな大規模な製鉄施設を設けたのだろうか?

しかも この喜界島はサンゴ礁の島で 製鉄原料の砂鉄は産しないという。



南西諸島で最初に確認された12世紀の崩り遺跡の製鉄炉跡。



7月30日 友人から「日経デジタルに喜界島で12世紀の製鉄遺跡出土のレビュー解説の記事が出ている」とのメールを買って初めて知りました。

- ◆ 喜界島 城久(ぐすく)遺跡 古代から中世にかけての大規模建物群と12世紀の(製鉄)鍛冶工房跡の出土
島中央の高台に大宰府の出先機関を思わせる大規模な建物群と本土や南西諸島、中国大陸、韓半島との交流を示す土器や陶器、磁器などの遺物が大量
また、その中の大ウフ遺跡では、15平方メートルの範囲で製鉄や鍛冶関連の遺構が20基集中して出土。
12世紀ごろの炉跡や鞆・羽口、大量の鉄滓などから、鉄器の製作加工工程があったことが判明。砂鉄も出土
製鉄原料のない孤島喜界島で 誰が 何のために 製鉄を行ったのか 注目を集めた

◆ **喜界島 崩り（くずり）製鉄遺跡** 12世紀の製鉄遺跡 西南諸島で初めての製鉄炉出土

城久遺跡群から4キロほどの島南西部から 城久遺跡と同時期の製鉄炉の跡が出土

調査した村上教授は

「崩りの炉の外径は約15～16センチとごく小さいものの、鉄滓を分析すると製鉄がなされたことは間違いない。

城久では不純物を精製する際に出る精錬鍛冶滓や鍛錬鍛冶滓などが出ている」と指摘。

◎ 喜界島は当時 大宰府の支配地であったが、辺境の孤島と言うより

「琉球交易の主要製品として 鉄素材・鉄器加工の生産基地となっていた」と注目を集めている

詳細な日経デジタルのレビュー記事が下記インターネットにあります。

「南島史が塗り替わる 12世紀製鉄炉跡の衝撃」との見出しで、発掘現場や出土遺物の写真と共に日本の製鉄遺跡の専門家 愛媛大学の村上恭通教授の視点をも含め、この12世紀の製鉄遺跡の全貌をレビュー。また、遺跡出土の12世紀の喜界島の時代背景や そして出土した製鉄遺跡の位置づけなどにも目を剥けた解説が掲載されています。

レビューが掲載されていますので、転載ませんが、インターネットからアクセスしてみてください。

南島史が塗り替わる 12世紀製鉄炉跡の衝撃

歴史新発見 鹿児島県喜界島

2015/7/30 6:00

日本経済新聞 電子版

ライフ>アート&レビュー・歴史

http://mx.nikkei.com/?4_120617_107844_15

鹿児島から屋久・種子島 奄美大島 沖縄 そして 宮古・石垣島から台湾へと弧状に連なる島々 縄文時代から延々と続く海の道。でも 製鉄関連遺跡については 種子島しか知らず、それも鉄砲伝来の島 砂鉄の宝庫。一昨年 種子島の砂鉄を訪ねて 屋久島の帰りに立ち寄って、種子島に残る製鉄遺跡や砂鉄浜を眺め、古くからの製鉄伝承はあるものの製鉄はあまり古くへは遡れぬとの印象で、縄文からの海の道での和鉄(てつ)の道・Iron Roadは種子島でストップかと思って帰ってきました。それが弧状に点々と連なる島々の琉球・本土のはざま喜界島が中世大規模な製鉄・鍛冶加工を行い、周辺への交易品の生産基地を担っていた可能性があるという。喜界島は本土の南辺 中世には 琉球と本土 どちらからも影響を受けていたといい、喜界島の遺跡・遺物の調査が進むにつれ、12世紀当時は本土の影響下にあり、周辺の島々を取り締まる大宰府の役所がここにあったとみられているという。

中央集権の国家を築き、東北 そして 九州平定を成し遂げた大和朝廷が、朝鮮半島そして南の琉球にも勢力を伸ばす前線基地だったのかもしれない。

今回見つかっている製鉄関連遺跡群は本土の影響を受けているとの見方が強いようですが、縄文時代から延々と続く交流路「海の道」である。琉球・大陸・朝鮮半島とも独自のルートを開いていたに違いない。この交流路をさらに南へ 鉄の交易ルート 和鉄の道・Iron Roadが伸びていたに違いない。そんなことを思わせる喜界島での12世紀の大規模な製鉄遺跡の発見です。

まだ 調査はこれから、海の道の「鉄」を解き明かしてくれることを期待しています。

今まで誰もがあまり触れなかった南の交流路「海の道」での古代製鉄研究が 今後広がってゆくことを期待しつつ、この喜界島での12世紀製鉄遺跡・製鉄関連遺跡の出土をお知らせします。

なお 「喜界島」と言うと 俊寛の「喜界が島」と混同されますが、俊寛の「喜界が島」は硫黄島。

この「喜界島」は奄美大島の東隣にある周囲50kmほどの小さな島です。

【資料】

南島史が塗り替わる 12世紀製鉄炉跡の衝撃

日本経済新聞

電子版

2015/7/30 6:00

ライフ>アート&レビュー・歴史

http://mx.nikkei.com/?4_120617_107844_15